
【巻頭言】

看護師と介護福祉士の思考の違い

東邦看護学会 理事長
横井 郁子

2018年2月現在、私が所属する東邦大学では「都市部の超高齢社会に挑む看護師養成事業」という文部科学省の補助金事業が動いています。養成事業ですので教育方法の開発が課題となります。さまざまな取り組みの中で、重要、かつ、容易ではないと予測していたのが看護と介護の連携を強固なものにする教育でした。率直な議論ができる看護師と介護福祉士に声をかけ、スタートを切ったものの、「これでいいのか」と悩まない日はありませんでした。介護福祉士も食事・排泄・移動等、生活援助を行います。看護職同士であれば、“業界用語”を並べて「ここは看護がこだわるところ」と意見の一致は早いのですが、介護福祉士の方々にはなかなか伝わりません。当然、その逆もあります。看護師と介護福祉士では教育背景が異なります。その違いを生かす教育を目指し、いろいろ試みているのですが、運営者たちの頭には霧（もや）がかかったままでした。

「あなたは食事、排泄ケアにおいて何を大事にしていますか」。今年の看護・介護職が共に学ぶ講座で出された事前課題です。ケア対象者に対して、日常的に実施している・考えていることを記述してもらおうと、あえて抽象度の高いテーマにし、書く分量を少なく指定して提出してもらいました。看護師・介護福祉士それぞれ8人。職種での違いが見え隠れします。どうやって整理したらこの違いが出るだろうか、と思案していたとき、何かの話し合いをしていた介護福祉士から“マズロー”という言葉が聞かれました。すかさず、「知っていますか。学習されましたか。」と尋ねたところ「はい」と。即座に「これを使おう！」と決め、さっそく、事前課題で記述された「大事にしていること」をマズローの階層で整理をしてみました。そうしたら……、どちらの職種もすべての階層を埋めていくのですが、看護師は第1階層の生理的欲求に、介護福祉士は第4の階層、尊重・承認の欲求の階層に関係する記載が多いという結果になりました。「はじめての看護理論（医学書院）」で勝又氏は、ヘンダーソンの14項目のうち8項目がマズローの第1の階層・生理的欲求の内容であることを指摘しています。そうだったのか、と私の霧は少しずつ晴れていきました。

「看護師はマズローの生理的欲求に目を向けてから、上の階層に向かう。介護福祉士はその逆で、尊厳など上の階層に関心を寄せたのちに安全に目を向ける。そんな“攻め方が違う”看護と介護が連携・協働したら生活支援は効率的で最強になるのでは」。この解釈は多くの看護・介護職たちから共感を得ました。しかし、これはまだ仮説。検証はこれからです。

平成30年3月吉日
